

体験を通して

体験後の子供たちの感想を、ご紹介します。

- これから人が目の前で倒れていたら救急（車）が来るまで正しい手順で処置をして、その人を助けられるようになりたい。
- 自分ができることが少しでも増え、「私の行動で1人でも多く助かるといいな。」と思いました。
- 自分の町のAEDのある所（その場所）などをしっかり確認し、いざという時のための備えをした方がよいと思いました。
- 近くのどこにAEDあるのかをしっかりと調べて覚えておきたいなと思いました。
- もし、周りに大人がいれば胸骨圧迫の他にも救急車を呼んだり、AEDをもってきたりもできるので、その時にあわせて自分にできることをやりたいと思います。
- 実際に（救急事態が）起こった時には、冷静に周りの人と協力しながら取り組もうと思います。特にぼくは、行動に制限があるので、他の人にひきわたしながら救命しようと思います。絶叫で近所の人を呼んで手伝ってもらいます。
- 実際に、このようなこと（救急）が起きてしまったら積極的に救助に参加するのも大事だけど、自分たちは大人の人を呼んだり救急車を呼ぶなどの助けをすると、大人の人にとってもいい援助になると思いました。

強く、早く、絶え間なく

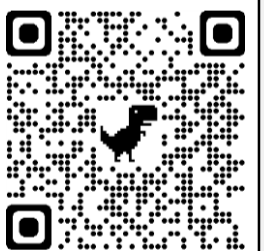


1月25日(火)2・3校時に5・6年生が、救命救急講習会を行いました。南三陸消防署の富田署員、梶原署員、菅原署員の3名が来校して3グループに分かれ傷病者の発見から心臓マッサージの実技訓練を一人一人が体験しました。この講習会は、今年度で5年連続で少年消防クラブの活動として行われています。署員の皆さんからは、講義と実技を通して「命を助ける意味を考えるきっかけにしてほしい。」「(消防署と学校が)よりよい関係性を深める活動としていきたい。」という言葉をいただきました。少年消防クラブの活動と消防署との交流を通して防災意識を高めさせていただきます。

「命のバトン」をつなぐため



第41号
発行元
入谷小CS推進
委員会編集部



ホームページへのQRコード

上手に染まった？

1月24日(月)2・3校時に4年生が総合的な学習の時間において、自分たちが育てた蚕からできた繭を染める作業を行いました。作業は、ひころの里から田中定子様にお出でいただき繭染めの方法を教えてくださいました。子供たちは、9月に毛羽取りを行い真っ白だった繭がきれいな黄色やピンク色などに染まり、何を作ろうかと思案していました。自分たちの小物を作るのももちろんのこと6年生に贈るプレゼントがうまくだせるようにと頑張っていました。



訓練の重要性を実感!!



実技の前に講義で対策を聞く



菅原署員 大坪署員 高橋課長

1月14日(金)午後3時30分より、校内研修会として南三陸警察署から3名の署員の方をお招きして防犯訓練を行いました。訓練に先立って生活安全課課長高橋靖様から「不審者対策について」講話いただき、不審者の判断の仕方やセルフディフェンスについて教えていただきました。講話終了後は、体育館において実際に不審者になった時の行動やさすまたを使った実技講習会をしていただきました。訓練と分かっても不審者役に、うまく対応できずに押し

さすまたを使って実際に犯人役をおさえました



切られたりしてしました。最後には、相手との距離を上手に取りながら不審者を追い込み取り押さえる仕方を署員の方に教えていただきました。職員は、1年に1回は必要な訓練だと実感していたようでした。